



「物価と消費に関するアンケート」

消費増税や物価上昇により、日常生活の節約意識高まる

Text by ししがぎん経済文化センター 榎原 美也子

昨年4月の消費増税や、円安による輸入価格の上昇や燃料・光熱費の上昇などで、物価の上昇が続いている。このような状況が、家計や消費行動にどのような影響を及ぼしているのかを調査するため、滋賀銀行の店頭にご来店の女性を対象に「2014年冬季・物価と消費に関するアンケート」を行った。

【調査概要】

- 調査名:「物価と消費に関するアンケート」
- 調査時期:14年12月11日(木)～15日(月)
- 調査対象先:滋賀県内の滋賀銀行本支店にご来店の女性
- 有効回答数:717人
うち29歳以下:134人、30歳代:126人、40歳代:185人、50歳代:153人、60歳以上:119人

「物価」はさらに上昇、今後も高い水準が続く

「現在の物価は半年前と比べてどうか」とたずねたところ(図1)、現在の「物価DI」(「かなり上がった」「やや上がった」と回答した割合から「かなり下がった」「やや下がった」と回答した割合を引いた値)は+86.5となり、前回(14年6月:+85.6)から+0.9ポイントとさらに上昇した。円安による原材料価格の高騰や消費増税の価格転嫁が進むなど、物価は上昇し続けている。

「今後、半年間でどうなると思うか」と見通しをたずねたところ、「物価DI」(同上)は+81.8で、現状(+86.5)から4.7ポイント低下するものの、依然、高い水準が続く見通しである。

「今後、半年間でどうなると思うか」と見通しをたずねたところ、「物価DI」(同上)は+81.8で、現状(+86.5)から4.7ポイント低下するものの、依然、高い水準が続く見通しである。

「消費増税後の節約」は“不要不急の費用”と「日常の努力で節約できるもの」

消費増税から半年以上が経ち、「購入を控えているもの、節約しているもの」(複数回答)をたずねたところ(図2)、引き続き「外食費など飲食費」(46.5%)が最も多かったものの、前回(2014年6月:49.1%)より2.6ポイント低下した。次いで「衣料費」(43.0%)、「食料費」(42.0%)、「旅行・レジャー費」(38.0%)と続いた。「食料費」「旅行・レジャー費」については、それぞれ前回より5ポイント以上の増加(順に+9.8ポイント、+5.7ポイント)。上位6項目をみると、外食費や衣料費、旅行・レジャー費といった“不要不急の費用”と、食料費、日用雑貨、光熱・水道費などの“日常の努力で節約できる費用”が上位を占めるなど、節約志向がうかがえる結果となった。

「特になし」は12.9%と前回(15.8%)から2.9ポイント低下し、買い控え・節約を行っている家庭が前回よりも増えているようだ。

物価上昇で「値上がりを実感するもの」は「日用品」「交通費(ガソリン代含む)」が約5割

物価上昇が続くなか、「値上がりを実感するもの」(複数回答)をたずねたところ(図3)、「日用品」が51.8%となり、5割を超えた。続いて、「交通費(ガソリン代含む)」(49.2%)、「調味料」(39.2%)、「光熱・水道費」(34.2%)と続いた。円安による原材料費の高騰や燃料価格の上昇により、日用品や交通費、電気・ガス代などの値上がりを実感している人は多いようだ。

また、「特になし」と回答する割合は4.2%で、多くの家庭で何らかの値上がりを実感しているようだ。

「衝動買いをしない」が約6割

消費増税や物価上昇をきっかけにして「消費行動はどのように変わったか」(複数回答)をたずねたところ(図4)、「衝動買いをしない」(56.2%)が最も多く、約6割となった。次いで「より安い価格帯のお店で購入する」(43.9%)、「特売やタイムセールを利用する」(36.3%)と続いた。上位7項目については3割を超え、日常生活での節約意識が高いことがみとれる。

所得環境の改善が今後のポイント

今回の調査では、消費増税や円安の影響による食料品等の値上げにより物価の上昇が続いているものの、所得環境の改善がなかなか見られず、日常生活での節約意識の高さが感じられる結果となった。原油価格は下落傾向にあるものの、年明けの食料品値上げ等、物価は今後も高い水準が続く見通しであり、所得環境の改善が個人消費改善のポイントとなりそうだ。今後の動向が注目される。

調査結果の詳細は
当社ホームページの「滋賀ビジネスレポート」に掲載。
<http://www.keibun.co.jp/economy/business-report/>

